

# 近世の笛譜にみる楽家の伝承—京都方と在京天王寺との関係性—

大阪芸術大学 音楽学科 特任准教授 出口 実紀

本研究は近世の雅楽譜に基づき、京都方の中で笛を主業としていた大神(山井)家と天王寺方楽家の中で京都に居住していた「在京」岡家および東儀家との関係について、笛譜の記譜から考察するものである。

雅楽は、代々「楽家」と呼ばれる人たちによって伝承されてきた。彼らは明治期に統合されるまで、京都(京都方)、奈良(南都方)、大坂(天王寺方)の三地域に本拠地を置き、それぞれの地域で雅楽の演奏活動に従事するとともに、家ごとに決められた楽器および舞を代々伝承してきた。天王寺方の楽家は藺・林・東儀・岡の四家で構成され、笛を主業とするのは岡家と東儀家の一部の家筋である。

筆者は近世の岡家の研究に取り組む中で、岡家の笛譜が二つの系統に分類できることを明らかにした。近世の笛譜には、「本譜」と呼ばれる孔名譜が記されるが、それとともに「唱歌」を記すことが多くみられる。唱歌とは片仮名で記された楽器の旋律を唱えるための譜のことである。

この本譜と唱歌の記譜が、同じ岡家の譜であるにも関わらず二つの系統に分かれる理由としては、その家の居住地や譜を著した楽人の出自が大きく影響していると考えられる。

近世期、天王寺方は本拠地である大坂に居住する「在天王寺」(在天)の家と、京都御所等での奏楽に従事するため京都に居住する「在京」の家に分かれていた。本家と複数の分家から構成される岡家も同様に、在天岡家と在京岡家が存在していた。

そこで、岡家の笛譜を精査、分類し、笛譜の書写に関わった楽人の出自や居住地を照らし合わせたところ、記譜の違いは居住地と関係している可能性が高いことが判明した。在京天王寺の楽家にとって、日常で演奏を共にするのは京都方や在京南都方の楽人たちである。そのため、必要となるのは天王寺方が代々伝承していた演奏(旋律)ではなく、京都方楽人や在京南都方の楽人たちと統一した演奏であり、その結果、天王寺方楽家ではあるものの在天とは異なる旋律を持つ譜の系統へと変化していったのではないだろうか。

それを裏付けるため、「在京天王寺」の笛譜と京都方の中で笛を主業としていた大神(山井)家の笛譜を比較考察することにより、在京天王寺と京都方の譜の系統との関係性を明らかにする。

まず、天王寺方の記譜について整理する。在天岡家の

笛譜では、①唱歌の「リ」において漢字の「利」を使用すること、②本譜に「平(平調)」や「双(双調)」といった音名表記を用いること、③「トハハ」や「テレヘ」といった現行とは異なる唱歌を用いること、④本譜(旋律)においても、一部現行とは異なる旋律がみられる、といった特徴が挙げられる。一方、在京岡家の笛譜である国立歴史民俗博物館所蔵の『龍笛譜』(岡昌芳、文化八年)をはじめ、書写者の出自が在京岡家と関わりのある笛譜では、①本譜には指孔が用いられること、②唱歌の表記も含め、「トリヒ」など現行に近い唱歌であることが指摘できる。

では次に、京都方の山井家の笛譜を考察する。名古屋大学附属図書館所蔵『龍笛譜』(山井基寿、文政八年)は、中央に唱歌、その左横に本譜(指孔)が記される現行と同じ記譜様式である。唱歌をみると現行の唱歌譜と類似しているものの、「トウラア」や「ロウホウ」といったように、母音を細かく表記するという点が特徴として挙げられる。

この在京岡家の『龍笛譜』と山井家の『龍笛譜』は、成立年代が文化八年(1811)、文政八年(1825)と近いことから、今回比較分析の資料として取り上げることとした。この両者の譜では本譜や唱歌がどの程度一致するのか、異なる箇所はあるのかを照合した結果、本譜においては一部表記の違いはあるものの、旋律そのものは同じであった。本譜の一部表記が異なるのは、例えば「中・夕・中」と運指が動く際、山井の譜ではこのとおり表記されるが、在京岡家の譜では「中・由」と表記される。この「中・由」は、演奏する場合「中・夕・中」と同じ運指になるため、旋律はどちらも同じである。岡家の譜ではこのように指が隣り合って動く運指の際に「由」を使って表記する傾向があることも今回確認できた。

そして、在京岡家と山井家の譜では本譜は同じで、唱歌が異なる箇所が多く見受けられた。本譜が一致していることは演奏される旋律自体は同じであり、在京岡家の楽人が京都方の山井家の楽人と共に参仕(奏楽)する際、演奏上の支障は無いと考えられる。在天岡家と在京岡家の譜では明らかに旋律自体の系統が分かれているため、本研究によって、在京岡家と京都方の譜の旋律は一致している事が裏付けられた。ただし現時点では二種の譜による照合結果に留まっているため、今後京都方、在京岡家および在京東儀家の他の笛譜とも照合作業をおこない、京都方と在京天王寺方との関係性をさらに紐解く必要がある。